

製品・サービス動向-国内

■ ZVC Japan：Zoomtopia 2023 において
Zoom プラットフォームに追加された新機能や機能強化を発表

(PR TIMES:10月12日)

Zoom Video Communications 社 (<https://zoom.us/ja>) (米国・カリフォルニア州、日本法人：ZVC Japan 株式会社) は、今月 Zoomtopia 2023 (<https://zoomtopia.com/>) を米国サンノゼにて開催し、Zoom プラットフォームに最近追加された新機能や機能強化を発表した。



同社 CEO Eric Yuan 氏 (ZVC Japan)

ハイブリットワーク環境は、従業員のエンゲージメントの確保、チームメンバー間のつながりの感覚や公平性、包括性の維持などハイブリットワークに関する多くの課題がある。

Zoom 社は、従業員がフルタイムでオフィスにいるか、自宅においてパートタイムで仕事をしているか、完全にリモートであるかにかかわらず、効果的なハイブリットワーク環境の構築に固有のこれらの課題に対処するための製品の開発や強化を続けている。今回の発表はその一環となり、強力な AI 機能を駆使した効

果的なコミュニケーションおよびコラボレーションツールによって業務の合理化をサポートするものとなる。

ワークスペース「Zoom Doc」リリース

新たに発表した「Zoom Doc」。通常のドキュメント機能に加え、Wiki、表、図、画像といったコンテンツブロックのドラッグアンドドロップ機能が含まれており、AI 機能である「Zoom AI Companion」を活用することで、「Zoom Meeting」のコンテンツをドキュメントに追加して情報共有や文書作成の迅速化を促し、コンテンツを作成できるほか、サマリー作成やドキュメント検索も素早く簡単に行えるもの。

柔軟でモジュラー式のワークスペースであり、AI を軸に一から開発された革新的な製品という。Zoom はもとよりサードパーティアプリとのスムーズな連携も可能となっている。2024 年に一般公開の予定。

「Zoom Whiteboard」に AI Companion を追加

「Zoom Whiteboard」に AI Companion を追加した。これは法人ユーザーの新規獲得に向けて高等教育機関およびヘルスケア部門顧客向けに発表されたもの。ミーティングとチームチャットのサマリー機能が追加されている。類似サービスでは 1 ユーザーあたりの月額使用料が 30 ドル以上になることがあるが、有効なアカウントを所有している有料ユーザーの場合は、Zoom AI Companion を追加料金なしで利用できる。

なお、Zoom AI Companion では、進行中のミーティングで聞き逃した内容の把握、長いチャットスレッドからのサマリー生成、「Zoom Mail」でのメール作成などが行えたり、デジタルホワイトボード上でアイデアを生み出したり、あるいは、カテゴリごとに整理したりすることもできる。

Zoom から Workvivo へ直接アクセス

Zoom 社が今年初めに買収した従業員エンゲージメントおよびコミュニケーションソリューション「Workvivo」を導入することで、今日ハイブリットワークモデルにおける従業員の情報共有、エンゲージメント、そしてコミュニケーションが可能になる。

現代のように職場が分散されている環境では、強力で常に進化する従業員エンゲージメント戦略を持っていることは大きな強みになるという。そのため、Zoom 社では、Workvivo ユーザの方向けに Zoom デスクトップクライアントから Workvivo へ直接アクセス機能を開発した。この機能は今後数週間以内に利用可能となる。

「Workspace Reservation-Way Finding」機能

「Workspace Reservation」では、よく共同作業を行う従業員の空席を示すのに加え、予約済みの席への地図を表示する「Way Finding」機能を来年追加する予定となっている、これにより、馴染みのないオフィスでも、モバイル端末に表示されたルートを確認すれば、自分のデスクを簡単に見つけられるようになる。

「My Office View in Huddles」にプレゼンスインジケータなど追加

仮想コーワーキングスペースである「Zoom Huddles」を通じ、オフィス内、ハイブリットワーク、リモートチームに分散された従業員を1か所にまとめることができる。Zoom 社では、この度、「My Office View」にプレゼンスインジケータおよび位置情報確認機能を追加予定のため、共同作業を行う相手が Zoom Huddles やオフィスに出席している時間を把握できるようになる。「My Office View in Huddles」は2024年に公開する予定となっている。

「Zoom Scheduler」の最新機能

Zoom Scheduler の最新機能では、使い切りの予約リンクを組み込んでカレンダーを管理したり、予約

ページのロゴのカスタマイズによって一貫したブランド体験を提供したりできる。また、複数のアカウントサポートを追加することで、仕事用や個人用カレンダーなど複数のアカウントにまたがって空き時間を確認できるようになっている。また、ホストごとの空きスケジュールも別々に組み込めるため、ほかのチームや地域のカレンダーのブロックやサポート代理が不要になる。これにより、エグゼクティブアシスタントとその他サポートメンバーによる予約代行、Salesforce と Zoom Scheduler の連携による Zoom Scheduler ミーティング記録と Salesforce との自動同期が可能となっている。

顧客との関係を強化する「AI Expert Assist」

AI Expert Assist のジェネレーティブ AI は、顧客サポート担当者および責任者向けの機能で、顧客の声を聞いて、アウトプットをリアルタイムで生成できるため、サポートセンターのワークフローの合理化に役立つ。

顧客サポート担当者向けには、自然で会話らしい言語によるコンテクスチュアルでリアルなアクション提供、また有用な顧客情報やナレッジベース情報の自動表示といった機能がある。さらに顧客サポート責任者は、人力の業務のコスト削減と好機喪失の軽減に役立つ実用的なインサイトを活用することができる。担当者向け機能は第4四半期後半（年末）に、責任者向け機能は来年第1四半期に利用可能になる。

「Zoom Virtual Agent」「Zoom Contact Center」メッセージングアプリとの連携

企業ブランドは、パーソナライズされたつながり、より迅速な解決、長期的なロイヤリティの向上を可能にするために、顧客がすでに利用しているチャンネルで企業は顧客に対応しようと努めている。Zoom 社ではそのサポートにあたり、「Zoom Virtual Agent」「Zoom Contact Center」を Meta の2つの人気デジタルメッセージングアプリである「WhatsApp」と

「Messenger」の両方と今後数か月以内に連携する予定となっている。

「Zoom Events」イベントの準備と実施のためのサポートより充実に

Zoom Events のジェネレーティブ AI には、AI が作成した招待メールやロビーチャット（今後数か月以内に公開予定）、セッション（来年公開予定）が搭載されることになっており、イベントの準備と実施のためのサポートがさらに充実する。

オープンなエコシステム、サードパーティソリューションへの追加機能

Zoom のオープンプラットフォームは、優れた統合やアプリに加え、Zoom とシームレスに連携するサードパーティソリューションを顧客に提供するパートナーエコシステムに支えられている。Zoom 社は、シームレスなワークフローの開発、およびサードパーティソリューションの開発をより容易にする追加機能を発表している。

■ZVC Japan：「Zoom Phone」における固定電話番号ポータビリティサービスの国内提供を開始

(PR TIMES: 10月5日)

ZVC Japan 株式会社 (<https://zoom.us/>) (東京都渋谷区) は、クラウド型電話サービス「Zoom Phone」における固定電話番号ポータビリティサービスの国内提供を開始する。

Zoom Phone は、Zoom のコミュニケーションプラットフォームの核となる機能のひとつで、あらゆる規模のオフィスに完全クラウドネイティブのビジネス専用交換機 (PBX) を提供する。

Zoom のエコシステムと完全に統合されており、シームレスな設定とサービス管理が行え、他サービスと連携して拡張しやすく、便利。Zoom Phone の利用

により、すべてのビジネスにおけるコミュニケーションとコラボレーションに必要な機能をユーザは Zoom の包括的なコミュニケーションプラットフォーム 1 か所にまとめて使用することができるようになっている。

日本国内では、2021 年 10 月より一般提供を開始し、2022 年 6 月には Zoom Phone の日本ユーザ向けにネイティブな OABJ 番号の提供を発表した。

今回の番号ポータビリティの提供開始の発表は、Zoom のコミュニケーションプラットフォームを通じて、より柔軟で革新的なコミュニケーションを実現するための取組の一環として追加されたサービスとなる。

番号ポータビリティにより、Zoom Phone ユーザは現在使用している他の電話サービスで利用している OABJ 番号を、Zoom Phone ネイティブ接続における電話番号に移管して利用することが可能になる。既存の Zoom Phone ユーザは一時費用など支払うことなく、新規 OABJ 番号を利用する際と同様に「Global Select Plan」(Unlimited, Metered, Global Numbers)の用意があれば番号ポータビリティが利用可能となる。

■TD SYNEX：「Microsoft Teams」認定ソリューションである Yealink 社のスマートホワイトボードとスマートディスプレイを 2023 年秋に国内初発売

(10月10日)

TD SYNEX 株式会社 (<https://www.synnex.co.jp/>) (東京都江東区) は、Yealink 社 (<https://www.yealink.com/en>) (中国廈門市) が開発・設計した「Microsoft Teams」認定のスマートホワイトボード「MeetingBoard 65」とスマートディスプレイ「DeskVision A24」を日本で初めて発売する。

Yealink 社の MeetingBoard 65 と DeskVision A24 は、未来のハイブリッドワークプレイスの形を、適切な価格と使い勝手の良さを両立させた新しいソリューション。

TD SYNEX は、世界 100 カ国以上のメーカーから厳選された評価の高い IT 製品を提供し、グローバルなサポートを通じて、日本市場における IT 製品・ソリューションの活用を支援している。

これまで長年にわたり、Microsoft Teams のソリューションプロバイダーとして、Microsoft Teams 関連ソリューション・製品を幅広く取り扱っており、今回 Yealink 社の両製品が加わることでさらにお客様の環境やニーズに適合したトータルソリューションを提案することができるという。



MeetingBoard 65 (写真：TD SYNEX)

MeetingBoard 65 は、65 インチのワイドタッチスクリーンディスプレイ、4K カメラ、16 個の MEMS ビームフォーミングマイクロホン、6 個のスピーカなどを一体化した、コンパクトなデザインのスマートホワイトボード。Microsoft Teams Rooms に Microsoft Whiteboard を統合することで、物理的なホワイトボードをデジタルスペースにする。ハドルスペースから小規模会議室までさまざまなワークプレイスに適應する。

本体は、電源ケーブルと Wi-Fi ネットワークへの接続だけで、ビデオ会議やスマートホワイトボードの共同作業がスムーズかつ迅速に行える。IT 管理者は「Teams Admin Center」を通じてリモートでデバイスを管理できる。



DeskVision A24 (写真：TD SYNEX)

DeskVision A24 は、オフィス、コワーキングスペース、フロンブース、ハドルルームなどのワークスペース向けに設計され、優れたオーディオおよびビデオ体験と充実した Teams ディスプレイ機能を備えている。

大画面の Teams ディスプレイとしての役割を果たすだけでなく、日常的なモニターとしても利用可能。このデュアルモードディスプレイは、オーディオやビデオの品質に優れた Teams デバイスとしての機能を提供するとともに、ネイティブ Teams ディスプレイとしても利用できる汎用性を持っている。

また、DeskVision A24 は、UC ワークステーションとしての役割も果たす。USB ハブと Qi 充電機能を統合し、ユーザの作業効率を向上させる多機能なデバイスとなっている。

Yealink 社は Android ベースの包括的なビデオ会議ソリューションを提供する。今回発表された 2 製品の他に、ハドルスペースやホームオフィス向けの「MeetingBar A10」、小会議室向けの「MeetingBar A20」、中・大規模会議室向けの「MeetingBar A30」を用意しており、ユーザがどこにいても、ビデオ会議のニーズに応えるために必要なオプションを備えている。

■テレキューブサービス：個室型ワークブース「テレキューブ」、ビルオーナー向けに設備投資不要でテナント無料利用のプラン開始

(10月6日)

テレキューブサービス株式会社 (<https://telecube-svc.co.jp/index.html>) (東京都千代田区) は、オフィスビルや商業施設での個室環境不足を手軽に解決する新しいプランとして、ビル共用エリアに個室型ワークブース「テレキューブ」を設備投資ゼロ・月額レンタル制・テナント無料利用で設置できる「テレサレンタル」 (<https://telecube-svc.co.jp/telesarental/>) の提供を10月より開始した。

コロナ禍で変化した新しい働き方や生活様式により、オンラインでのコミュニケーションがビジネスシーンに広がり、企業のオフィス内における Web 会議利用の個室環境が不足し、入居しているビル共用設備として Web 会議に適した個室環境を求めるニーズが拡大しているという。



テレキューブ (テレキューブサービス)

それに伴い、オフィスビルを運営するビルオーナーの立場から、こうした入居テナントの個室ニーズに応えるべく、ビル共用エリアに Web 会議用の個室環境を整備する動きが広まりつつある。その一方で、実際の導入にあたっては、設備投資や予約管理などの運用コストといった課題が健在化してきている。

今回、このようなビル運営の課題を踏まえ、テレキューブをビルの共用設備として、ビル共用エリアの有休スペースにレンタル設置するプラン「テレサレン

タル」の提供を開始した。これにより、ビルオーナーは「設備投資ゼロ、月額レンタル制」かつ「テナント無料提供」で、ビル共用エリアに Web 会議対応の個室ワークブースを整備することが可能となる。

<テレサレンタルについて>

概要	個室型ワークブース「テレキューブ」をビル共用エリアに設置しテナント無料、運用手間いらずのプラン。
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 設備投資不要。 ● 月額レンタルプラン。 ● 入居テナントは無料で利用が可能(施設内 / 利用上限あり)。 ● 来館者は有料利用、売上還元あり。 ● 予約システム運用から利用者対応まで、テレキューブサービスにお任せ。
URL	https://telecube-svc.co.jp/telesarental/ テレサレンタルの詳細については、上記 URL をご確認ください。

テレサレンタル開始 (テレキューブサービス)

テレサレンタルが導入されたビルでは、入居テナントがビル内に設置されたテレキューブを無料で利用できるため、ビジネスシーンにおける利便性が向上し、ビルの価値が高められるという。また、入居テナントは、一度会員登録をすることで、駅、空港、オフィスビル、商業施設に設置されている全国各地のテレキューブを出張や外出時に利用することができるようになるため、幅広いエリアで個室環境にアクセスすることが可能となる。

一方、入居テナント以外の来館者のテレキューブ利用料は有料で、ビルオーナーは売上の一部を受け取ることが可能。利用者の予約管理や運用はテレキューブサービスが行うため、煩雑な運用を気にする必要もない。

■RevComm：「MiiTel Meetings」無償トライアルプランの提供を開始、ChatGPTを利用した議事録作成機能も利用可能

(共同通信 PR ワイヤー：10月2日)

株式会社 RevComm (<https://www.revcomm.co.jp/>) (東京都渋谷区、以下レブコム) は、AI搭載オンライン会議解析ツール「MiiTel Meetings」 (<https://miitel.com/jp/>) を最大2ヶ月間無償で利用できるトライアルプランの提供を10月2日から開始した。



MiiTel Meetings (RevComm)

MiiTel Meetings は、AI 搭載オンライン会議解析ツール。「Zoom」、「Microsoft Teams」、「Google Meet」などのオンライン会議に、AI による文字起こしとトーク解析・音声感情認識機能、ChatGPT 議事録作成機能を付加することにより、オンライン会議の可視化、社内共有を可能とし、営業の生産性向上を実現する MiiTel ブランドのサービス。議事録作成業務の自動化、オンライン会議の分析・共有により業務効率向上、セルフコーチングの推進などに活用でき、「Salesforce」などの顧客管理システムとの連携により顧客とのオンライン会議を一元管理できる。

同社では、2022年7月に MiiTel Meetings をリリースして以降、オンライン会議における利用者の利便性を高め、生産性向上に貢献するためにはどのような機能が必要かを日々検討しているという。リリース以降これまで、文字起こしの全文検索機能、要約機能（β版）、音声感情認識機能、要注意商談通知機能、ChatGPT 議事録機能等をリリースした。また新機能追加に加え、顧客管理（CRM）ツールやチャットツールとの連携も行い、利用者の利便性を高めている。

この度、MiiTel Meetings 無償トライアルプランは、法人向け（個人事業主も申込み可能）で、以前実施した無償提供キャンペーンに好評を得、継続の要望を多くあったため、改めて実施することにしたという。本トライアルプランでは、月 40 時間までの利用で 2,760 円（税抜）/1ID の MiiTel Meetings 利用料金を最大 2 ヶ月間無料にする。1 社につき最大 10 ID まで

利用できるという。

ビジネス動向-国内

■ヤマハ：遠隔会議用ワンストップサウンドソリューション「ADECIA ワイヤレスソリューション」が、「Microsoft Teams」の認定を取得

（10月11日）

ヤマハ株式会社（<https://jp.yamaha.com/products/proaudio/unified-communications/>）（静岡県浜松市）は、同社が提供する遠隔会議用ワンストップサウンドソリューション「ADECIA ワイヤレスソリューション」が、「Microsoft Teams」の認定を取得したと発表。



ADECIA ワイヤレスソリューション（ヤマハ）

ADECIA ワイヤレスソリューションは、ワイヤレスマイクロフォンシステム「RM-W」シリーズ、遠隔会議用プロセッサー「RM-CR」、ワイヤレスアクセスポイント「RM-WAP-8」「RM-WAP-16」、Dante/PoE 対応ラインアレイスピーカー「VXL シリーズ P モデル」などで構成されている。

無線式のマイクロフォンならではのフリーな座席レイアウトで遠隔会議が行える。1.9GHz の DECT 無線方式を採用し、マイクロフォンはグースネック型、テーブルトップ型の計 4 種類をラインナップしており、参加人数の増減や会議形式の変更など多様化する会議シチュエーションに柔軟に対応する。

また、最大 16 本のマイクロフォンを同時使用でき、ワイヤレスアクセスポイント「RM-WAP-8」「RM-WAP-16」とのペアリングはマイクロフォン充電ステーション「RM-WCH-8」にマイクロフォンを載せて ACTIVATE ボタンを押すだけの簡単操作で実現する。加えて、Web UI による電波環境のモニタリング機能を搭載し、安定的に使用可能なマイクの本数を表示できるため、現場に合わせて混信や音切れが発生しにくい環境を作るための事前調査が可能となっている。

■ ブイキューブ：防音個室ブース 「TELECUBE by OKAMURA C Type」が 「2023 年度グッドデザイン賞」を受賞

(10月5日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) は、防音個室ブース「TELECUBE by OKAMURA C Type」が、「2023 年度グッドデザイン賞」を受賞した、と発表。



TELECUBE by OKAMURA C Type (ブイキューブ)

グッドデザイン賞は、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する 1957 年に創設された日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨の仕組み。デザインを通じて産業や生活文化を高める運動として、国内外の多くの企業やデザイナーが参加している。「グッドデザイン・ベスト 100」は、その年のグッドデザイン賞の中から審査委員会により特に高い評価を得た 100 点が選定される。受賞のシンボルである「G マーク」は、よいデザインを示すシンボルマークとして広く親しまれ

ている。

「テレキューブ」は、ブイキューブが 2017 年より「Web 会議の場所がない」「Web 会議の場所がない」問題を解決するために提供開始した、さまざまな場所に容易に設置できる防音個室ブース。

今回受賞した TELECUBE by OKAMURA C Type は、株式会社オカムラ (神奈川県横浜市) と共同開発したもので、従来モデルと同等の機能を維持しながら環境配慮と安全性を高めたモデルとして仕上がっている。

軽量設計により従来モデルと比べ構造体の部品重量を約 18%軽量化。製品重量の減量により輸送時の CO2 排出量削減を実現し、梱包資材の削減も図り、環境に配慮している。また、ブースに取り付けるドア周りの構造を開発し、ドアとブース本体の隙間をなくしたことで、開閉時に手を挟む心配もない。さらに、従来モデルと同等の高い遮音性能を維持しながら、吸音性能を向上させている。集中作業だけでなく会話に適した音環境と安全で快適な空間を実現するとともに、軽量設計による環境配慮により環境負荷低減に貢献している。

■ SB C&S：Zoomtopia Partner Connect 2023 で「2023 Japan Distributor Partner Award」を受賞

(10月5日)

SB C&S 株式会社 (<https://cas.softbank.jp/>) (東京都港区) は、Zoom Video Communications 社 (米国・カリフォルニア州) 主催の Zoomtopia Partner Connect 2023 にて、「2023 Japan Distributor Partner Award」を受賞した、と発表。

Distributor Award は、グローバルで Zoom ビジネス拡大に貢献したディストリビュータに贈られるアワード。SB C&S は認定ディストリビュータとして、売上の拡大に貢献し、日本国内におけるリセラーリクルーティング活動に大きく貢献したことが評価され、4 年

連続での受賞となった。



2023 Japan Distributor Partner Award (SB C&S)

今後も SB C&S は、SaaS 普及のため発足した専任チーム「Cloud Service Concierge (クラウドサービスコンシェルジュ)」の活動を通して、SaaS ベンダー企業やパートナー企業とともに企業の DX に貢献していくとしている。

■ヤマハ：ビデオコラボレーションシステム「CS-800/CS-500」が「2023年度グッドデザイン賞」を受賞

(10月5日)

ヤマハ株式会社 (<https://sound-solution.yamaha.com/products/uc>) (静岡県浜松市) は、ビデオコラボレーションシステム「CS-800/CS-500」が公益財団法人日本デザイン振興会の「2023年グッドデザイン賞」を受賞したと発表。今年度6件受賞したうちの1件となる。



CS-800 (後) /CS-500 (前) (ヤマハ)

2023年4月発売のビデオコラボレーションシステム

ム CS-800/CS-500 は、映像・音声・AI 技術の相乗で話者の言葉やしぐさ、表情までリアルに伝える遠隔会議システム。多様化する働き方やオフィス空間での需要に加え、あらゆる場所で最適化した音空間とユーザビリティを創出する。

CS-800 は中規模会議室でも使えるスピーカ内蔵のビデオサウンドバー型、CS-500 はオープンスペースに最適なマイク・カメラ一体型のモデル。ユーザが遠隔会議を通じて生産的かつ創造的なコミュニケーションをとれるよう体験そのものを設計し、デザインした。

ヤマハは今年度、CS-800/CS-500 を含め、グッドデザイン・ベスト 100 選出に選ばれたヘッドホン「YH-L700A」(2023年2月発売)、ステージキーボード「CK61」(2023年3月発売)など6件を受賞。グッドデザイン賞受賞としては1984年から40年連続の受賞となる。

■Kandao Technology 社：オールインワン360度カメラシステム「Kandao Meeting Ultra」が「2023年グッドデザイン賞」を受賞

(PR Times：10月12日)

Kandao Technology 社 (<https://www.kandaovr.com/ja/>) (中国深圳) は、2023年5月に発売したオールインワン360度カメラシステム「Kandao Meeting Ultra」がこの度2023年グッドデザイン賞(公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞したと発表。

Kandao Meeting Ultra は、2つの傾斜可能な15.6インチの大型フルHDタッチディスプレイ、2個の4Kレンズ、内蔵オペレーションシステム、8個のマイク、Hi-Fi スピーカなどを搭載したオールインワン製品。会議室の全空間を映し出す2つのレンズによって出席者全員をとらえ、ハイブリット会議でも「フェイスツーフェイス」の臨場感を実現できる。



Kandao Meeting Ultra(Kandao Technology 社)

Kandao Technology 社は、VR 技術と Ultra-HD ビデオカメラの分野で先駆的な企業で、人間の生活体験を豊かにすべく、優れたイメージング製品を創造するというミッションを持つ。2017 年の CES デジタル映像部門にける「CES Best of Innovation Award」を初めて受賞した中国系企業で、グッドデザイン賞「GOOD DESIGN AWARD」設立以来、カメラ部門において初めて「BEST 100」を受賞した中国企業でもある。

同社より開発した製品は、革新的なデザインや機能性を重視し、多くの製品が「CES Innovation Awards」「Red Dot Award」「iF Product Design Award」「IDEA Award」日本グッドデザイン賞「GOOD DESIGN AWARD」「German Design Award」など国際的なデザイン賞を受賞した。

ビジネス動向-海外

■ Neat 社：元 Zoom 社で CMO (Chief Marketing Officer) を務めた Janine Pelosi 氏を同社の CEO に任命、同時に市場開拓幹部の強化も実施、IPO を目指す

(businesswire：10月3日)

Neat 社 (<https://neat-japan.com/>) (ノルウェー・オスロ、日本法人：Neatframe 株式会社) は、元 Zoom 社で CMO (Chief Marketing Officer) を務めた Janine Pelosi 氏を Neat 社の CEO に任命したと発表。同時に、Neat 社設立以来、創業者兼 CEO を努めた

Simen Teigre 氏は CEO 職を退き、Chief of Emerging Innovations の職に就任する。今後は Neat デバイス製品開発に時間とエネルギーを集中するという。両氏とも同社の取締役会メンバーとなる。

Jenine Pelosi 氏はテクノロジー業界で 20 年近くの経験を持ち、Neat 社に入社する前は、2015 年から 2023 年まで Zoom 社の CMO を務めた。初期の創業チームの一員として、Zoom 社を初期段階から IPO の成功、そして世界的なパンデミックの中で経験した急激な事業成長までを導く重要な幹部であった。また、Zoom 社に入社する前は、シスコに買収された Webex (補足:2007 年) において世界市場全体のダイヤモンドジェネレーション (需要創出) をリードした (買収前後の期間)。2020 年フォーチュン誌の「40 Under 40」に選ばれる。サンノゼ州立大学でマーケティング学の学士号を修めている。

Neat 社の大株主である Ubon Partners 社の OJ Winge 氏 (Neat 社の共同創業者でもある) は、Jenine Pelosi 氏を選んだ理由として、Zoom 社を小さなソフトウェアスタートアップ企業から世界的に認められた大企業へ成長させることに重要な役割を果たした点にあるという。Neat 社はこれから上場企業への準備に入る上で同氏の経験が非常に貴重になってくるようだ。

Neat 社は 2019 年に設立。以来、同社は 7,300 万ドル以上の資金調達を行い、Atlassian 社、HubSpot 社、楽天などを含む 12,500 以上の企業に 20 万台の Neat デバイスを販売した。

またこの 1 年間の間に、同社は、市場開拓を積極的に推し進める (Go-to-market) リーダーの強化も実施した。COO (Chief Operating Officer) にはシスコなどでセールスやパートナーアライアンスの経験がる Todd Meister 氏が、また、インターナショナル担当のバイスプレジデント兼ジェネラルマネージャには Martijn Blokland 氏、南北アメリカ担当のバイスプレジデント兼ジェネラルマネージャには Rick Hill 氏がそ

れぞれ就任した。

さらには、2023年9月には、ソフトウェアエンジニアリング兼CTO（Chief Technology Officer）担当バイスプレジデントには、Kevin McMenamy氏が就任。リアルタイムコミュニケーション業界で26年以上の経験を持ち直近ではシスコのWebexメディアエンジニアリング担当チーフアーキテクトであった。また、マーケティング兼コミュニケーション担当部長（head）にPriscilla Barolo氏が就任。同氏は、直近でZoom社のコミュニケーション担当部長（Head）を担当した。同社でマーケティング・コミュニケーション部署で10年近く務めZoom社コミュニケーション戦略において重要な役割を果たした。

セミナー・展示会情報

<国内>

■ブイキューブセミナー情報（10月）

「緊急対応におけるデジタル技術活用の最新動向と指揮統制フレームワーク」「ウェビナー開催入門～ZOOMウェビナーとメタバースウェビナーの違いと効果～」 「Amazon IVSやAgoraで始める [ライブ配信アプリ開発] 勉強会」「ぶらっとオフィス見学 Days！」など
会場：オンライン／オンデマンド／東京
主催：株式会社ブイキューブ
詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

■Webex Meetings 関連ウェビナー（10月）

会場：オンデマンド
主催：シスコシステムズ合同会社
詳細・申込：https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html

<海外>

■Webexone 23

日時：10月24日～26日
会場：アナハイムマリOTT（米国・カリフォルニア州）
&バーチャル
主催：米シスコシステムズ
詳細・申込：<https://www.webexone.com/>
国内その他：<https://cnar.jp/cna/event-j.html>
※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。
CNAR.jpサイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNAレポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dtc-forum）

<https://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999年～最新号）は下記URLで閲覧できます。

<https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

CNAレポート・ジャパン 2023年10月15日号

ホームページ：<https://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp